

Q(WE)R FILMS

2022年4月26日(火)～28日(木)

渋谷 ユーロライブ

<https://qfilms.peatix.com/>

4月27日(水)

18:00-19:30

Lola vers la Mer by Laurent Micheli

『海に向かうローラ』

(監督ローレント・ミケーリ | 2019年 | 90分 | ベルギー/フランス)

提供: オランダ王国大使館/ Movies that Matter Festival (オランダ 人権映画祭)

ベルギーのシェルターハウスで暮らす18歳のローラは、ある日突然母親を亡くしてしまう。しかし犬猿の仲である父親のフィリップは、彼女を葬儀に参列させようとしめない。怒ったローラは遺灰を持ち出してしまいが、フィリップは“砂丘に散骨してほしい”という妻の遺言をかなえるために、遺灰を離さないローラを乗せて車を走らせる。性別適合手術を応援してくれていた母を失い、ローラはやがて父親と向き合いはじめる。演技未経験のミヤ・ボラルスが主役を好演。父親役には歳を重ねたブノワ・マジメル、ローラの親友役は『セックス・エデュケーション』のラヒーム役で注目のサミ・ウタルバリが務めている。

(予告映像: <https://youtu.be/puuUxbX9XjQ>)

4月27日(水)

20:00-21:33

+ Q&A 22:10終了

Futur Drei by Faraz Shariat

『未来は私たちのもの』

(監督ファラズ・シャリアット | 2020年 | 93分 | ドイツ)

提供: ゲーテ・インスティテュート東京

イラン系移民の両親を持つミレニアル世代の青年パーヴィスは、両親がドイツで築いた安定した快適な環境で育つ。出会い系アプリのデート、レイヴやパーティで暇つぶしをしながら、地方暮らしの退屈さを紛らわせている。ある日、万引きがバレて、社会奉仕活動を命じられたパーヴィスは、難民施設で通訳として働くことになり、そこでイランからやってきたきょうだいバナフシェとアモンに出会う。3人の間に微妙なバランス関係が生まれ、ドイツにおけるそれぞれの未来が平等でないことを彼らも次第に気づき始める。

1994年生まれのファラズ・シャリアット監督による自伝的デビュー作。過激でエキセントリックな演出ながらも、ドイツにおける移民系の青年の成長を偽りのない形で描く。繊細でポップ、かつ力強く多様

性を肯定する訴えが評価され、2019年のファースト・ステップス賞で最優秀長編映画に選ばれ、若い俳優たちのアンサンブルがゲッツ・ゲオルゲ奨励賞にも輝いた。2020年、世界プレミアを迎えたベルリン映画祭では2部門でテディ賞を受賞。

(予告映像: https://youtu.be/_c4zydiCZhM)

- * ゲスト: ファラズ・シャリアット監督(オンラインLive Q&A)
- * 手話通訳つき

—

東京レインボープライド2022にあわせフランス、ドイツ、オランダの大使館がそれぞれ作品を提供し、LGBTQ+の歴史や運動を見つめる映画上映を行います。さらに、上映にあわせて監督や関係者をオンラインや対面で迎えるアフタートークやビデオメッセージも実施！日本では観られる機会の限られた作品ばかりです。

本プログラムは映画を通し、様々な歴史や、先人たちの苦悩や功績のいくつかを知る機会をつくり、地域や世代を超えた繋がりを作り意識を高めることを目的としています。

—

- ・上映作品は全て日本語字幕付き。
- ・会場は各上映開始15分前
- ・会場内では必ずマスクの着用をお願いします。

会場: ユーロライブ(渋谷区円山町1-5 KINOHAUS 2F)

定員: 160

- ・会場に車イス専用席はございませんが、最前列での鑑賞は可能です。会場(2階)にはエレベーターを降りて、段差なしで特別口(ステージ下手)から入場いただけます。会場スタッフが案内しますので、気軽にお声がけください。
- ・2階のトイレは階段上にありますので、1階にあるトイレをご利用ください。

チケット情報:

Peatixでチケットを販売します。

<https://qfilms.peatix.com/>

- ・会場でのチケット販売はございません。

—

主催: 在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本、一般社団法人COIL

共催: ノーマルスクリーン

協力:FAV 連連影展、ふれいす東京、SHIBAURA HOUSE、オランダ王国大使館、ゲーテ・インス
ティトゥート東京、カナダ大使館
メディアパートナー:Time Out Tokyo
お問い合わせ:normalscreen@gmail.com